



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月8日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	109,864	16.2	15,098	55.8	15,683	53.2	10,531	17.0
2023年3月期第3四半期	94,507	35.2	9,690	614.3	10,238	330.6	9,001	74.5

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 10,839百万円(15.6%) 2023年3月期第3四半期 9,375百万円(85.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	97.88	97.69
2023年3月期第3四半期	82.44	82.31

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	176,636	106,703	59.5
2023年3月期	188,623	107,915	56.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 105,161百万円 2023年3月期 106,451百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	56.00	—	57.00	113.00
2024年3月期	—	28.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	29.00	57.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	144,500	12.8	18,000	38.9	19,100	40.4	12,700	52.6	118.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年3月期3Q	109,468,400株	2023年3月期	109,468,400株
2024年3月期3Q	2,613,807株	2023年3月期	282,604株
2024年3月期3Q	107,597,202株	2023年3月期3Q	109,185,840株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年12月31日、以下「当第3四半期」という)におけるわが国の経済は、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられ、個人消費や設備投資の回復基調を受けて景気は緩やかに持ち直しの動きがみられましたが、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しする懸念があるほか、円安の長期化や物価の高騰などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、主力市場であるナイト市場・カラオケボックス市場を中心に、全体として回復傾向で推移いたしました。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第3四半期の業績は、売上高は109,864百万円(前年同期比16.2%増)となり、営業利益は15,098百万円(同55.8%増)、経常利益は15,683百万円(同53.2%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期にあった助成金収入2,920百万円が当第3四半期では剥落したことにより、10,531百万円(同17.0%増)となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	94,507	109,864	15,356	16.2%
営 業 利 益	9,690	15,098	5,407	55.8%
経 常 利 益	10,238	15,683	5,445	53.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,001	10,531	1,530	17.0%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、事業環境の改善を背景に、機器賃貸件数の拡大とコロナ禍の影響により減速していた旧機種から新機種への入替えを推進することにより、安定的収益基盤の強化に努めるとともに、ライブ映像・アニメ映像・ミュージックビデオなどの映像コンテンツをさらに充実させることにより、カラオケDAMの商品力強化を図りました。

このようななか、4月にはフラッグシップモデルの後継機種である「LIVE DAM AiR(ライブダムアイアール)」を発売いたしました。マイクを通して声による楽曲予約やリモコン操作を可能にした「Aiアシスタント」機能を拡充し、英語・中国語・韓国語の発話にも対応したほか、実在のライブ会場の音響特性を再現する「ライブサウンド」機能に、数千人の大合唱やコール&レスポンスを演出する「エキサイトライブホール」を追加するなど、うたう楽しさをさらに追求した機能が好評をいただき、計画を上回る出荷状況となりました。

また、エルダー市場においては、コロナ禍においてかなわなかった介護施設等への訪問営業が一部で可能となるなど事業環境が改善するなか、オンラインイベントを定期的に開催するなどウェブの活用にも注力し、稼働台数の増加に努めました。

以上の結果、新商品の好調な出荷とともに、機器賃貸件数及びDAM稼働台数が堅調に増加したことにより、売上高は前年同期比5.8%の増収となり、営業利益は機器賃貸に係る原価や販管費の増加などの影響により、前年同期比8.9%の減益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	43,414	45,950	2,535	5.8%
営 業 利 益	10,898	9,927	△971	△8.9%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、カラオケ8店舗、飲食7店舗の出店を行い、カラオケ3店舗の閉店と、飲食において複合業態の統合などによる15店舗の閉店を行ったことにより、当第3四半期末の店舗数はカラオケ513店舗、飲食163店舗となりました。

5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられたことなどにより、店舗の集客は期初から回復傾向で推移いたしました。最大の繁忙期である12月には、カラオケ店舗における二次会利用に回復が見えたほか、飲食店舗の予約受注が好調に推移し、当第3四半期の既存店売上高はコロナ禍以前に比べカラオケ店舗で約8%減、飲食店舗で約12%増の水準まで回復し、前年同期比ではカラオケ店舗で約25%増、飲食店舗で約35%増となりました。

このようななか、9月に35周年を迎えたビッグエコー店舗においては、「優里」や「ももいろクローバーZ」といったアーティストとのコラボレーションのほか、取引先企業の主力ブランドでカラオケルーム内を装飾した「グッドカンパニールーム」や「ビッグエコーカラオケグランプリ」など、35周年を盛り上げる様々な施策を通じて、カラオケから足が遠のいていたお客様の呼び戻しを図るとともに、最上位機種である「LIVE DAM AiR (ライブダムアイアール)」の早期導入やビッグエコーアプリヘデンモクアプリ起動機能を搭載するなど、顧客満足度向上に努めました。

また、飲食店舗においてはコールセンター機能の拡充を行い宴会予約の獲得を強化したほか、ダーツ業態3店舗を出店するなど、幅広く集客の獲得を推進しました。

以上の結果、売上高は前年同期比30.1%の増収となり、5,619百万円の営業利益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	37,240	48,446	11,206	30.1%
営 業 利 益	△709	5,619	6,328	—

(音楽ソフト)

当事業におきましては、イベント・コンサート等が再開され、音楽業界にも活気が戻りつつあるなかで、CD・DVD等の商品販売及びテレビ番組制作事業がほぼ計画水準で推移いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比4.7%の増収となり、営業利益は前年同期比100.1%の増益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	4,680	4,899	218	4.7%
営 業 利 益	124	249	124	100.1%

(その他)

当事業におきましては、新たな収益の柱とするべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業が堅調に推移し、当第3四半期末時点で約2,400施設、30,000車室の規模に拡大いたしました。また、土地オーナー様に向けたテレビCMなどを通じて「ザ・パーク」ブランドの認知拡大に努めました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入の増加などの影響により前年同期比15.2%の増収となり、営業利益はパーキング事業に係る広告宣伝費などの販管費が増加した影響により、前年同期比5.0%の減益となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	9,173	10,568	1,395	15.2%
営 業 利 益	1,211	1,151	△60	△5.0%

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ11,987百万円減少し、176,636百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では現金及び預金が19,425百万円減少し、受取手形及び売掛金が1,731百万円増加しております。

固定資産ではカラオケ賃貸機器が3,012百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,809百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ10,775百万円減少し、69,932百万円となりました。

これは主に、固定負債の長期借入金が10,038百万円減少したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,212百万円減少し、106,703百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加10,531百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少6,103百万円及び自己株式の取得による減少6,000百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月9日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	71,812	52,386
受取手形及び売掛金	5,367	7,099
棚卸資産	11,735	10,046
その他	4,888	6,459
貸倒引当金	△374	△345
流動資産合計	93,429	75,646
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,306	9,319
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	9,192	11,002
土地	40,218	40,218
その他（純額）	6,574	7,491
有形固定資産合計	62,292	68,032
無形固定資産		
のれん	606	549
その他	6,056	5,496
無形固定資産合計	6,663	6,045
投資その他の資産		
投資有価証券	4,914	5,559
敷金及び保証金	14,477	14,494
その他	6,986	6,995
貸倒引当金	△140	△137
投資その他の資産合計	26,237	26,911
固定資産合計	95,193	100,989
資産合計	188,623	176,636

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,954	4,198
短期借入金	13,511	13,154
未払法人税等	3,106	3,210
賞与引当金	1,151	1,173
その他	12,564	12,631
流動負債合計	35,288	34,369
固定負債		
長期借入金	31,135	21,096
役員退職慰労引当金	1,113	685
退職給付に係る負債	7,991	8,362
資産除去債務	2,018	2,008
その他	3,160	3,410
固定負債合計	45,419	35,563
負債合計	80,707	69,932
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,211	4,211
利益剰余金	89,885	94,313
自己株式	△571	△6,571
株主資本合計	105,876	104,304
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,047	1,250
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	99	184
退職給付に係る調整累計額	160	155
その他の包括利益累計額合計	574	857
新株予約権	292	350
非支配株主持分	1,172	1,190
純資産合計	107,915	106,703
負債純資産合計	188,623	176,636

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	94,507	109,864
売上原価	61,425	69,793
売上総利益	33,082	40,070
販売費及び一般管理費	23,391	24,972
営業利益	9,690	15,098
営業外収益		
受取利息	17	18
受取保険金	206	72
受取協賛金	142	140
為替差益	-	6
その他	530	572
営業外収益合計	897	809
営業外費用		
支払利息	130	104
為替差損	53	-
解約違約金	37	5
その他	128	114
営業外費用合計	349	224
経常利益	10,238	15,683
特別利益		
固定資産売却益	78	2
負ののれん発生益	112	-
助成金収入	2,920	-
特別利益合計	3,110	2
特別損失		
固定資産処分損	56	125
減損損失	117	81
特別損失合計	173	207
税金等調整前四半期純利益	13,175	15,478
法人税、住民税及び事業税	2,799	4,916
法人税等調整額	1,350	4
法人税等合計	4,150	4,921
四半期純利益	9,025	10,557
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,001	10,531

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	9,025	10,557
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	249	203
為替換算調整勘定	74	84
退職給付に係る調整額	25	△5
その他の包括利益合計	350	282
四半期包括利益	9,375	10,839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,351	10,814
非支配株主に係る四半期包括利益	24	25

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2023年2月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,331,100株の取得を行っております。この取得等により、当第3四半期連結累計期間において自己株式が6,000百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が6,571百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	43,414	37,240	4,680	85,334	9,173	94,507	—	94,507
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	10,898	△709	124	10,313	1,211	11,525	△1,834	9,690

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,834百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	45,950	48,446	4,899	99,295	10,568	109,864	—	109,864
セグメント利益 (営業利益)	9,927	5,619	249	15,795	1,151	16,947	△1,848	15,098

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,848百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い、従業員の出勤停止期間中の給料等を対象として助成を受ける雇用調整助成金のほか、国及び地方自治体等から給付を受ける助成金等を「助成金収入」に計上しております。

(重要な後発事象)

(固定資産の取得)

当社は、2024年1月29日開催の取締役会において、固定資産を取得することを決議いたしました。

(1) 取得の理由

当社グループの今後の成長を見据え、人的資本経営への取り組みの一環として本社機能を集約することを目的に、固定資産の取得を行うことを決議いたしました。従業員同士のコミュニケーションの活性化と生産性の向上を図り、中長期的な企業価値向上を目指すものであります。

(2) 取得資産の概要

資産の名称及び所在地	取得価額	現況
プライム高輪ゲートウェイ (東京都港区三田三丁目9番6号)	321億円	敷地面積：787.71坪 (2,604㎡) 延床面積：3,609坪 地下1階地上13階

(注) 取得価額については取引に伴う諸費用(不動産取得税、消費税、仲介手数料等)を含む概算金額です。

(3) 相手先の概要

- | | |
|----------------|---|
| ① 名称 | 合同会社M3プロジェクト |
| ② 所在地 | 東京都港区虎ノ門3丁目22番10-201号 |
| ③ 代表者役職・氏名 | 代表社員 一般社団法人M3プロジェクト
職務執行者 栗国 正樹 |
| ④ 事業内容 | 不動産信託受益権の取得、保有及び処分 |
| ⑤ 資本金 | 10万円 |
| ⑥ 設立年月日 | 2022年8月17日 |
| ⑦ 上場会社と当該会社の関係 | 資本関係・人的関係・取引関係及び関連当事者の該当状況につきましては、該当事項はありません。 |

(注) 相手先と当社との間には、記載すべき資本関係、人的関係、取引関係はありません。また、当社の関連当事者に該当する事項はありません。

(4) 取得の日程

- | | |
|----------|----------------|
| ① 取締役会決議 | 2024年1月29日 |
| ② 契約締結日 | 2024年1月30日 |
| ③ 物件引渡期日 | 2024年2月29日(予定) |

(資金の借入)

当社は、2024年1月29日開催の取締役会において、以下のとおり資金の借入を行うことを決議いたしました。

- | | |
|-----------|----------------------|
| (1) 資金の用途 | 不動産取得に必要な資金の借入であります。 |
| (2) 借入先 | 取引先金融機関8行(予定) |
| (3) 借入金額 | 300億円(予定) |
| (4) 借入金利 | 固定金利 |
| (5) 借入実行日 | 2024年2月20日以降(予定) |
| (6) 借入期間 | 5年～7年(予定) |
| (7) 担保の有無 | 無(予定) |

(取得による企業結合)

当社は、2024年1月29日開催の取締役会において、株式会社クレストの株式を取得して子会社化することを決議いたしました。なお、本件株式の取得により、株式会社クレスト及び同社が株式の100%を保有する株式会社おきなわブレイクについては、2024年3月期末より当社の連結対象となる予定です。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社クレスト
事業の内容 駐車場及び駐輪場の経営等

② 企業結合を行う主な理由

当社は、業務用通信カラオケ機器DAMのメーカーとして、全国の営業所を拠点として地域に密着した営業活動を展開しております。

そのようななか、当社グループでは、全国に配置したカラオケの営業拠点及び各地域において営業活動の中で構築した人脈などを活用し、業務用カラオケ事業及びカラオケ・飲食店舗事業に次ぐ第三の柱とするべく、「ザ・パーク」の名称でパーキング事業を推進しており、約2,400施設・30,000車室(2023年12月末時点)の規模まで拡大してまいりました。

株式会社クレスト(株式会社おきなわブレイクを含む)は、「ブレイクパーキング」の名称で東京・大阪・名古屋・沖縄といった主要立地に約700施設・6,000車室(2023年12月末時点)のコインパーキングを運営しております。同社株式を取得することにより、当社が課題としている都心の主要立地におけるシェアを大きく伸ばさせるだけでなく、同社が設立以来、20年以上にわたり培ってきた都心部における立地開発のノウハウを取得することで、当社パーキング事業の今後のさらなる成長に繋がるものと考えております。

③ 企業結合日

2024年2月26日(予定)

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得することによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	5,250百万円
取得原価		5,250百万円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。